



かつおぶしのおにぎりを、どうしておかかというの

かつおぶしを女房ことばで、おかかといった

昔、天皇の住む宮中に仕える女の人(女官)を、女房といいました。この女房たちが、衣服や、食べ物のことをいうときに、自分たちだけにわかる、独特のことばを使って言い表していました。たとえば、田楽を「おでん」、水を「おひや」、髪を「かもじ」などといったのです。

女房ことばは、ことばの一部を取ってしまったものや、ものの形や性質から名づけられたものなどがありました。また、省略したり、言いかえをしたりしたものが多くみられました。

おみや(みやげ)、おやき(焼きもち)、たけ(たけのこ)、まき(ちまき)、するする(するめ)、のもし(海苔)、むもし(麦)、しらいと(そうめん)、おひら(タイ)、しろ物(とうふ)、くろ物(なべ)などが、その例です。

かつおぶし、または、かつおぶしをけずったものは、「かか」といいました。「かか」に接頭語の「お」をつけて、「おかか」といったのです。

この女房ことばが、やがて、ふつうの人たちも使うようになり、現在でも使われているものがあります。

お祝いごとに使われるかつおぶし

かつおぶしは、おもに、料理のだしを取るために使います。また、当て字で「勝男武士」と書き、お祝いごとがあるときに、おくり物として使われてきました。

(監修・青木 国夫)

